

地域における観光資源の活用

指導教員：石川工業高等専門学校建築学科・准教授・熊澤栄二

学生氏名：南川愛貴・神保麗香

今村友里子・中川奨・米林篤輝・宇野紫織・江上史都・木屋裕介・放地悠貴・吉田早織

1. 調査研究成果要約

北陸新幹線開業に向けて津幡町の観光産業を活性化させるために、まちづくりを職能として担っていく石川高専建築学科の学生は、地元住民と商店主と共同して携帯と商店街の活性化を結ぶ観光戦略「歩く観光まちづくり」を企画し、観光実験事業を開催した。観光実験には平均年齢 65 才の参加者に対して学生が携帯電話の QR コード・携帯クーポンの発行などの操作をサポートした。その結果、高齢者にも利用可能な観光の仕組みと評価され平成 24 年度商工会が中心になり事業化されることになった。

2. 調査研究の目的

【背景】津幡町は 2014 年の北陸新幹線の開通，加えて俱利伽羅合戦を題材とした大河ドラマの誘致により，今後の観光客さらに人の流動の増加が期待される地域であるが，観光地化を視野にいれた整備が進められていない状況である。このような町の観光の可能性と課題を受け，平成 22 年度は町内における観光資源の洗い出しを中心に調査活動を行い，観光戦略の提言を行った。

【目的】昨年度の成果を基に以下の 4 つの目的を設定し，モデル地区における実証実験を踏まえた上で，観光戦略全体の仕上げの年として町全体の観光整備マスタープランの完成を最終目的とする。

- I 観光対象の明確化
- II 観光ルートの運用手法の提案
- III 各観光地地区の観光整備マスタープランの作成
- IV 観光客の傾向に応じたルートの策定

3. 調査研究の内容

本調査研究の骨子を図 1 に示す。設定したモデル地区(俱利伽羅地区)において I～IV の各目的に応じて実証実験或いは試算を行い，地域の状況を踏まえた形で提案を行った。各目的における活動内容を次頁に示す。

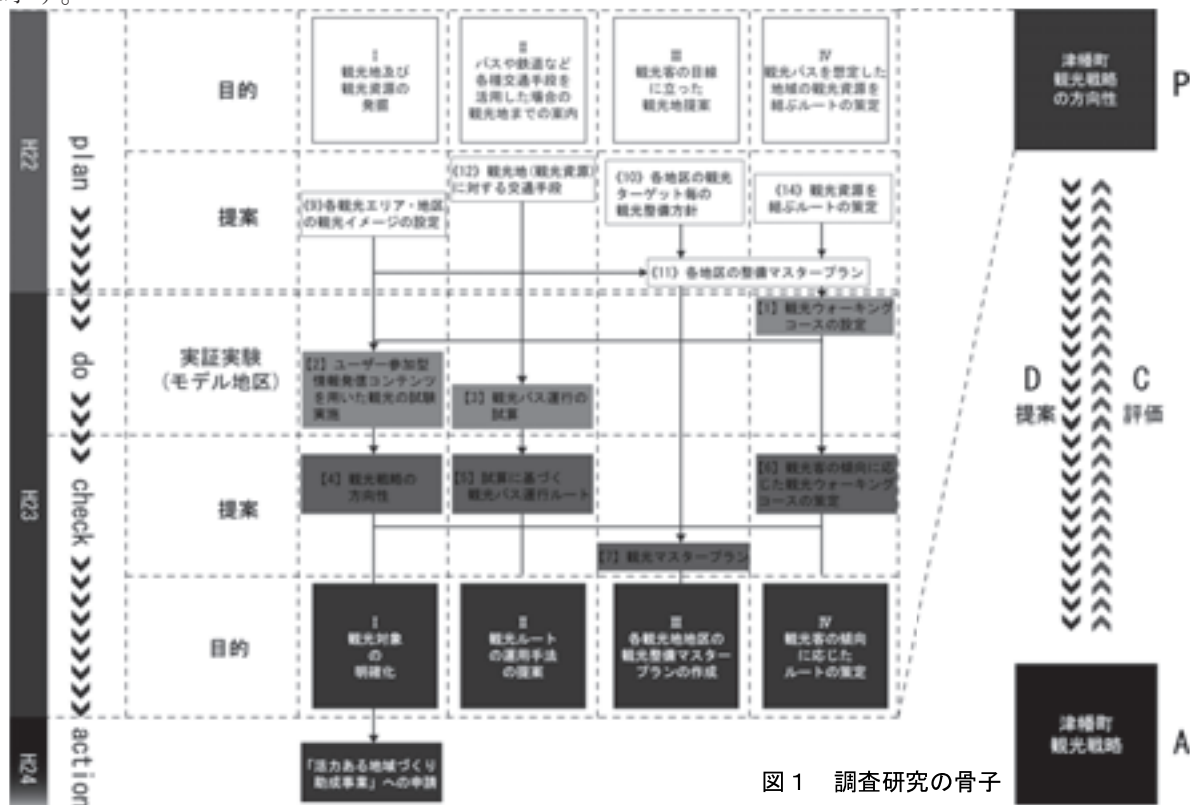


図 1 調査研究の骨子

3-1. 観光対象の明確化[目的Ⅰ] ※()内番号は表1の活動番号を示す。

【試験実施】ユーザー参加型情報発信コンテンツを用いた観光の試験実施(以下、「観光実験」とする。)

携帯を用いた新しい観光手法の可能性を検討するため、学生が主体的に企画を立案、行政・企業・地域(住民・商店)が連携して企画の検討会を開催し、試験的にモデル地区において観光実験を実施した。加えてアンケート等の調査を通じて、観光実験の有効性を検証した。(3~5, 8~15)

【提案】観光戦略の方向性

観光実験の有効性・課題を踏まえて、今後の津幡観光のあり方について観光戦略・観光整備の2つの面から提案を行った。(17)



図2 観光実験のようす (14)

3-2. 観光ルートの運用手法の提案[目的Ⅱ]

【試験実施】観光バス運行の試算

公共交通機関と観光地を結ぶ手法として、シャトルバスの運行を検討し、行政の協力を得てルートの策定と試算を行い、バス運行の可能性を明らかにした。(18, 19)

【提案】試算に基づく観光バス運行ルートの提案(活動中)

試算を踏まえて、観光客来訪のピーク時を想定したバス運行のルート(3地区)を提案する。(20)



図3 関係者協力依頼 (4)

3-3. 各観光地地区の観光整備マスタープランの作成[目的Ⅲ]

【提案】観光マスタープランの策定

試験実施の成果を踏まえて、観光地の整備方針を提案した。(24)



図4 検討会開催 (4)

3-4. 観光客の傾向に応じたルートの策定[目的Ⅳ]

【試験実施】観光ウォーキングコースの設定

モデル地区において、被験者(津幡町健康ウォーク会会員)の傾向を踏まえてルートを設定し、観光実験においてルートを歩く共に、ウォーキングコースとしての課題(整備要望等)を明らかにした。(6, 7)

【提案】観光客の傾向に応じた観光ウォーキングコースの策定(活動中)

津幡町健康ウォーク会の指導を基に、各観光地のターゲットを想定したウォーキングコースを設定(3地区)する。(21~23)



図5 タイムラインの検討 (7)

表1 調査研究の活動内容及びスケジュール

活動番号	関連活動	関連目的	活動名	連携組織	平成23年					平成24年		
					7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
1	-	-	津幡町との打合せ	津								
2	-	-	津幡町への報告会	津								
3	[2]	I	企画立案・作り込み	ウ商								
4	[2]	I	関係者協力依頼	Hス								
5	[2]	I	検討会開催	津,ウ,商,Hス								
6	[1]	I,IV	ウォーキングルートの設定	ウボ								
7	[1]	I,IV	当日のタイムラインの検討・作成	ウ								
8	[2]	I	携帯クーポンの設定・検討	商,ス,H								
9	[2]	I	携帯サイト作り込み	H,ス,ボ								
10	[2]	I	【企画1.携帯デバイスを用いた新しい観光手法の検証】	津,ウ,H								
11	[2]	I	【企画2.観光事業による地域商業の活性化の検証】	ウ,商,ス								
12	[2]	I	調査1 企画1参加者アンケート調査	ウ								
13	[2]	I	調査2 企画2参加者アンケート調査	ウ								
14	[2]	I	調査3 企画2店舗ヒアリング調査	ス								
15	[2]	I	調査4 企画1学生アンケート調査	-								
16	-	I	「活力ある地域づくり助成事業」申請	津,商								
17	[4]	I	観光戦略の検討	-								
18	[3]	II	観光バス運行のルート検討及び試算	-								
19	[3]	II	観光バス運行についての関係担当者との意見交換	津								
20	[5]	II	観光バス運行ルートの提案	-								
21	[1]	IV	観光客の傾向に応じたウォーキングルートの検討	-								
22	[1]	IV	津幡町ウォーク会との意見交換	ウ								
23	[6]	IV	ウォーキングルートの提案	-								
24	[7]	III	観光整備マスタープランの策定	-								

凡例 [津]:津幡町 [ウ]:津幡町ウォーク会 [商]:津幡町商工会 [ス]:スタンプ会 [H]:honey.comプロジェクト [ボ]:津幡町観光ボランティア

4. 調査研究の成果

4-1. 観光対象の明確化[目的 I]

観光客の傾向に応じたルートの策定[目的IV]

【試験実施】ユーザー参加型情報発信コンテンツを用いた観光の試験実施

【試験実施】観光ウォーキングコースの設定

4-1-1. 観光実験の企画概要

行政・企業・地域の連携により以下 2 つの企画からなる観光実験を実施した(図 9)。

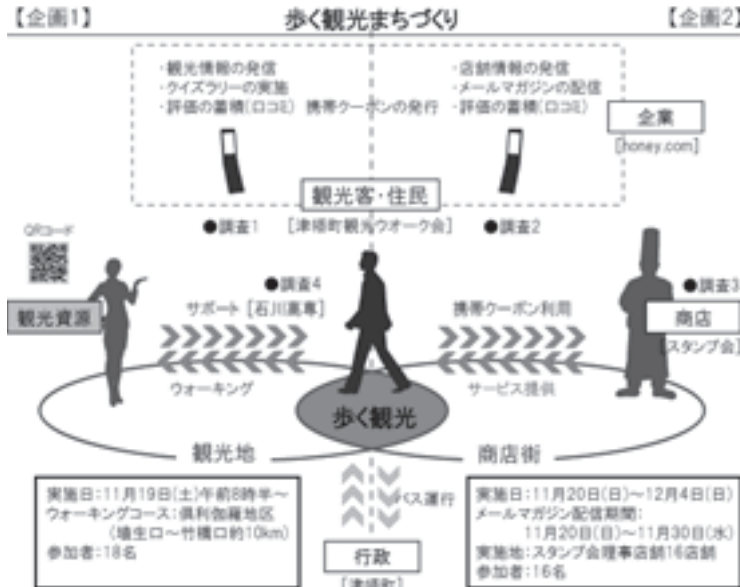


図 6 ウォーキング(企画 1)



図 7 集合写真(企画 1)



図 8 携帯クーポンの発行(企画 1)

【企画 1. 携帯デバイスを用いた新しい観光手法の検証】 図 9「歩く観光まちづくり」

モデル地区でウォーキングコースを設定し、QRコードを通じた情報提供並びにクイズラリーによる観光客参加型の観光手法を検証。更に携帯クーポンを発行し商店街との連携を図る(企画 2)。

【企画 2. 観光事業による地域商業の活性化の検証】

携帯クーポンを提供することにより観光客の地域商店街への誘客を促す。加えて観光携帯サイト・メールマガジンによる地域商店街の情報発信を併せて提供し、商店への販促を試みる。

観光実験を通じて携帯をツールとしたウォーキングによる観光の可能性を検証することができた。

4-1-2. 調査結果(調査 3 企画 2 店舗ヒアリング調査)

企画 2 終了後、スタンプ会協力店舗(16 店舗)にヒアリング(平成 23 年 12 月 7 日, 8 日)を行い観光実験の効果を測定した。

【携帯サービスの利用の継続】(図 10)

「継続したい」47% (条件付き)継続したい 40%

「継続したくない」13%

【観光と商業の連携への関心度】(図 11)

「とても関心がある」40% 「関心がある」53%

「あまり関心がない」7%

加えてヒアリングによる意見として、

- ・商店の「売り」「強み」を考える機会になった。
- ・企画対象者の拡大や新規企画の要望 等

成果として、初めての試みに対し課題提供や継続性を期待する声上がり、商店街の活気創出の一助となった。

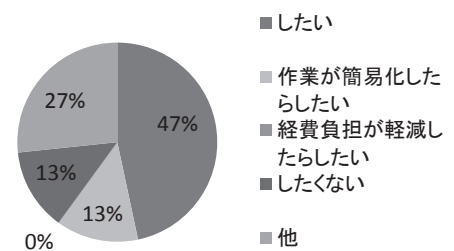


図 10 携帯サービスの利用の継続

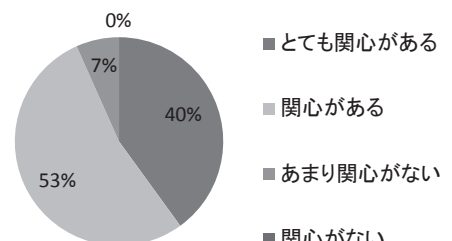


図 11 観光と商業の連携への関心度

4-1-3. 検討会による提言

観光実験の運営に当たり、連携組織の各代表者が集まり計3回の検討会を開催した。第3回の会議(図13)では高専側が調査結果の報告に併せて以下の提言を行い、会の合意を得ることができた。

【提言：携帯事業の推進】

携帯等 IT 機器の活用を通じて、観光による地域魅力の発掘、並びに地域生活・商業の利便性の向上を図る。

- ・事業1：利用者の嗜好性に応じた戦略的な情報提供
- ・事業2：利用対象者に応じた企画・目標設定
- ・事業3：過疎地への宅配システムの整備

検討会の成果として、特に事業1、事業2について「活力ある地域づくり助成事業」に申請し、平成24年度以降情報発信事業を軸に本格的に事業化することを決定した。

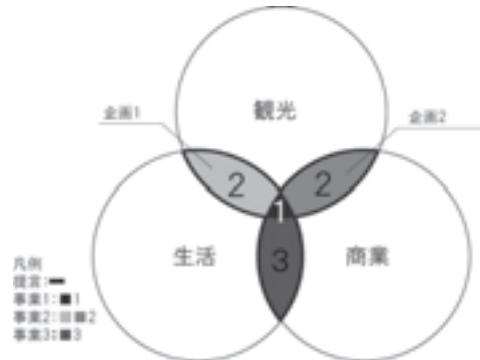


図12 携帯事業の推進

4-2. 観光ルートの運用手法の提案[目的II]

【試験実施】観光バス運行の試算

観光地と商店街及び公共交通機関等を結ぶ手段として、シャトルバスの運行(観光のピーク時の運行)を想定し、運行に係る経費及び観光客の利用による収入について以下の2パターンで試算を行った。

【パターン1：観光客入込数の設定】

大河ドラマの影響及び北陸新幹線開業効果による津幡町への来訪人数を設定し、運行収益を試算。

【パターン2：バス運行回数による経費の設定】

バス運行回数を設定し、それに係る経費の負担に必要な運行収益を試算、今後津幡町で目標とすべき来訪人数を明らかにした。

試算を踏まえて、平成25年度「活力ある地域づくり助成事業」においてシャトルバスの試験的運行を検討する。

4-3. 津幡町への中間報告

上記の4-1.及び4-2.の成果について、津幡町関係部署担当者に対し報告し、意見集約を行った(平成24年1月13日)(図14)。集約した意見を以下表2に示す。

関連活動	関連目的	意見分類	意見内容
【2】	I	評価	観光と商業の連携
【2】	I	課題	戦略的な情報発信の重要性
【2】	I	要望	携帯事業と公共機関の情報発信機能との連携
【3】	I	要望	連携組織の拡大
【3】	II	課題	バス利用者の確保
【3】	II	検討	シャトルバス運行の前向きな検討
—	—	課題	町外からの観光客の誘致
—	—	検討	総合的かつ長期的な観光プランの必要性
—	—	課題	民間主体の事業運営の重要性

表2 津幡町関係部署担当者による意見



図13 第3回検討会



図14 津幡町への中間報告会

4-4. 結

ウォーキングと携帯の情報発信機能の融合により、携帯が地域の魅力を発見する観光のツールとなる可能性を明らかにした(「歩く観光」)。さらに観光客による経済効果を地域商店に還元するため、行政・企業・地域そして学生の連携による観光地と商店街を結び付ける仕組み(「歩く観光まちづくり」)(図9)を構築した。また、情報発信整備というソフト事業に併せて、観光地と商店街間の利便性の向上といったハード整備の推進も不可欠である。間を繋ぐ手段としてシャトルバス運行の可能性を拓いた。来年度以降は本格事業化を通じて「歩く観光まちづくり」を推進する。

5. 調査研究に基づく提言

調査研究の成果：「歩く観光まちづくり」の構築

《1》携帯をツールとしたウォーキングによる観光の有効性の実証

《2》商店街への活気創出

《3》携帯による情報発信事業の本格事業化(平成 24 年度予定※「活力ある地域づくり助成事業」申請)

《4》シャトルバス運行の検討(平成 25 年度予定※「活力ある地域づくり助成事業」申請)

調査研究の成果を踏まえて、目的毎に提案をまとめ、本ゼミ活動からの提言とする。

5-1. 観光対象の明確化[目的Ⅰ]

【提案 1】観光戦略の方向性(図 15)

観光戦略の方向性 ・歩く観光 - 《1》

・観光地と商店街の一体的活用 - 《2》

観光整備の方向性 ・携帯事業の推進(ソフト事業) - 《3》

・シャトルバスの運行(ハード事業) - 《4》



図 15 観光戦略の方向性

5-2. 観光ルートの運用手法の提案[目的Ⅱ]

各観光地地区の観光整備マスタープランの作成[目的Ⅲ]

【提案 2】試算に基づく観光バス運行ルートの提案

【提案 3】観光マスタープランの策定(図 16)

観光拠点 観光客のホスピタリティの拠点として整備し、観光客・住民双方にとって魅力ある商店街を形成する。

・town area[中心市街地]：中心市街地を観光拠点として整備。観光客のホスピタリティの向上を目指す。

観光エリア 観光客と住民の交流の場。「歩く観光」を通じて地域資源を活用・保全する。

・自然：forest area[森林公園] mountain area[河合谷地区]

中山間地の立地を活かしたキャンプやスポーツ並びに田舎暮らしや民泊体験等を中核とした若者から家族世帯向け体験型観光。

・歴史：middle-age area[俱利伽羅地区] ancient area[舟橋地区]

古代から近世まで、京の都と北陸の文化の歴史的な関係や文化の往来を幅広く学ぶ。

・産業：agri area[河北潟干拓地] techno area[工業団地]

農業観光や「科学の町」を発信する産業関係者との交流を支援。主に近隣住民を対象とする。



図 16 観光マスタープラン

5-3. 観光客の傾向に応じたルートの策定[目的Ⅳ]

【提案 4】観光客の傾向に応じた観光ウォーキングコースの策定

以下の 3 地区の観光ターゲットの傾向に応じて、広域を歩くことを重視する【道あるきコース】と、数多くの観光資源に着目する【見てあるきコース】の 2 パターンを設定する。

・mountain area [河合谷地区]：女性及び 20 代男性への自然体験、50 代夫婦は歴史資源を含めたウォーキングコース。

・middle-age area [俱利伽羅地区]：50 代夫婦に向けた広範囲の歴史資源を結ぶウォーキングコース。

・agri area [河北潟干拓地]：30 代家族に向けたグリーン・ツーリズム等体験型のウォーキングコース。

6. 調査研究の自己評価

今回の調査研究に対し、観光実験関係者に対するアンケート調査や検討会・津幡町への中間報告会を通じて評価を収集(6-1. 外部評価)、さらに参加学生へのアンケート結果を自己評価として分析する(6-2. 自己評価)。

6-1. 外部評価

各関係者からの調査研究への評価を以下に示す。

【住民】[津幡町健康ウォーク会]

- ・地域の活性につながる取り組みに対する評価。
- ・学生との交流に対する充実感。
- ・今後の調査研究に対する期待・支援。

【商店】[津幡町商工会・スタンプ会加盟店舗]

- ・学生主体の新しい企画による商店街への刺激。
- ・活動の継続と対象拡大の要望。

【企業】[honey.com プロジェクト]

- ・情報発信ツールの活用方法に対する評価。
- ・学生活動との連携・支援。

【行政】[津幡町]

- ・常時運営を視野に入れた継続的な取り組みの要望。
- ・申請事業を通じた活動拡大の要望。

6-2. 自己評価(調査4 企画1 学生アンケート)

観光実験への参加学生(8名)に対し実施したアンケート平成23年11月20日では地域への関わりに対する意識を調査した。

【地域の人とのコミュニケーション】(図19)

「積極的に図った」62.5%、「サポートの際に図った」25%
「質問されて会話した」12.5%

【地域への関心】(図20)

「高まった」75%「特に高まっていない」25%

【地域課題を研究する重要性】(図21)

「強く感じた」37.5%、「感じた」62.5%

6-3. 結

外部評価からは、調査研究に対する将来性と継続の可能性を期待する評価を受けることができた。さらに学生と地域が異世代に渡って交流することにより、地域の活力を引き出すきっかけとなると共に、学生は日々の学業において地域の状況や課題に対する意識を高める機会となった。

今後地域の人との交流の機会の創出を意識するとともに地域の活性化や持続性を視野に入れた提案を配慮して調査研究に取り組みたい。



図17 北国新聞記事
(平成23年10月26日)



図18 北国新聞記事
(平成23年11月20日)

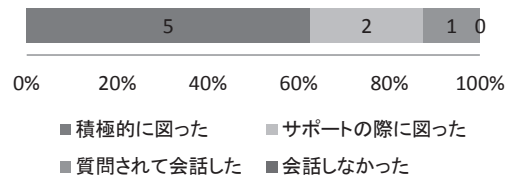


図19 地域の人とのコミュニケーション

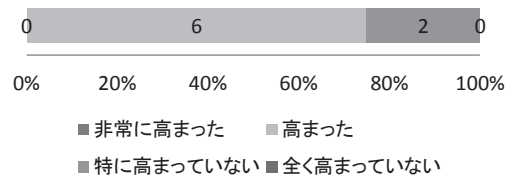


図20 地域への関心

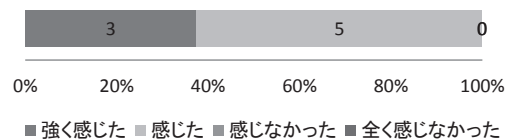


図21 地域課題を研究する重要性